

1、「米国の農業は国際競争力が強い」→国際競争力は政府の補助金の結果である

米国の農業には二面性があり。生産物を「内外に販売する大規模農業」と「地域内に供給する農業」。

前者は、コメ、小麦、トーマロコシ、大豆、畜産などであり、直接支払いを中心とする充実した補助金で保護されており、過剰生産物を輸出。この大企業農業では、内外の畜産業、加工業、流通業などと一体となって、一大農業と食糧の販路を持っている。

後者の地域密着型の農業では、直接支払いを中心とする充実した補助金の保護に上、地域の野菜、酪農、果実などを営む小規模農業であり、地域のファーマーズ・マーケットと提携している地域農業です。組織形態は前者では株式会社が多いが、後者は協同組合形式です。農産物価格は最低水準を割ると買い支えられている。

2、米国の農家所得補償の実態

- ① 米国の農家が継続的に農業を可能にする目標価格（保障最低所得）
- ② 国際市場の市場価格で農産物が販売されたときの収入
- ③ 米国では常に、「①>②」、米国は人件費が高い、赤字になる
- ④ そこで、「①-②」（赤字部分）を政府が全額補償する

だから、米国は農家の高い所得に関係なく、市場の安い価格で農産物を売ることが出来る。④は輸出補助金。

3、さらに米国には市場金利よりも安い金利で借りられる農業金融がある。

米国政府はWTOに「農業金利は社会保障の一環であり、農業保護ではない」と報告している。米国はWTOの農業自由化政策をうまく逃れている。——>日本には輸出補助金がない。